

3 / 24 Femtech Japan 2022
野田大臣メッセージ

- 男女共同参画担当大臣の野田聖子です。本日、Femtech Japan 2022 が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

- 女性は、その心身の状況が年代に応じて大きく変化します。個人差もあることから、それぞれが抱える悩みや不安も様々です。

- また、若い女性の生理や妊娠、結婚を取り巻く環境は、以前と比べて大きく変化しています。
例えば、現代の女性は、出会いから結婚までの交際期間が長くなっています。1980 年代当時の女性は、平均 22 歳で夫となる男性に出会い、2 年半ほどお付き合いをして、25 歳で結婚していました。一方、現在は、平均 25 歳で出会い、4 年以上お付き合いをして、29 歳で結婚しています。
さらに、女性の就業率が上昇し、第 1 子出産前後の就業継続率も上昇する中で、女性にとっては、長い期間にわたり「仕事」と「女性特有の健康課題」との両立が課題となります。

- このような状況の中で、女性が、正確な情報に基づき、自らの意思で、自らの身体のことを決定できることは、女性活躍・男女共同参画の大前提であり、極めて重要なことです。

あわせて、男性も含めて、企業・職場や社会全体が、年代ごとの女性の健康課題への理解・関心を深めることが重要です。

- 生理や更年期などの女性特有の悩みについて、先進的な技術を用いた製品・サービスにより対応する「フェムテック」は、こうした女性特有の健康課題を解決し、ヘルスリテラシー向上の一助となるものです。
- 政府では、昨年6月に政府決定した重点方針2021や、骨太の方針2021において、初めて「フェムテックの推進」を盛り込み、関係省庁において具体的な取組を進めているところです。
- 例えば、経済産業省では、働く女性の月経や妊娠・出産、更年期障害など、女性特有のライフイベントに起因する望まない離職を防ぐため、フェムテック製品・サービスを活用したウェルビーイング実現に向けた事業を、補助金により支援しています。
- また、厚生労働省では、フェムテック関連製品について、正確な情報を提供しつつ、性能や品質が担保された上で、消費者に速やかに普及することができるよう、薬事規制上の位置付けなどについて、産官で議論を行っています。

- さらに、女性の健康に関するヘルスリテラシーの向上に向けて、この春初めて、内閣府に入府する全ての新入職員に対し、女性の健康に関する研修を実施することにしました。今後、こうした取組を広く普及させていきたいと思ひます。

- フェムテックは今、大きな転換期にきています。「フェムテック」という言葉の認知度を高めるだけでなく、悪貨が良貨を駆逐するような状態にならないよう、性能や品質が確保された安全な製品・サービスを提供していくことが求められています。
政府でも、消費者庁の協力を得て、フェムテック関連の相談を注視しています。
質の確保のための一定の規制があるからこそ生まれるアイデアもあると思ひます。フェムテックに対する信頼が失われない形で、さらにアイデアが広がっていくよう、まさに本日ご参加の皆様の取組に期待をしたいと思ひます。

- これからも、女性の健康課題への取組を始め、女性がのびのびと力を発揮できる社会づくりに向けて、関係省庁と取組を進めてまいります。

- 本日のイベントが、こうした社会づくりに寄与することを、心より期待しております。

以上